

地域のこれから in 高丘

市民と市長との対話のきろく

現在気になっていること、市長や行政、みんなと一緒に考えたいこと



防災井戸の設置

内容

災害時に備えて防災井戸が欲しい。

参加者より

大規模災害が発生した場合に備えて、水源の確保が必要。明石市には高圧水ポンプ車は2台しかないことも踏まえて、小学校や大きな公園に、生活排水、生活用水のための防災井戸をつくってほしい。

市より

- ・現在、自衛隊と連携して、災害時の水の供給について協議を進めている。
- ・水の供給は非常に重要な課題。明石市の現状を確認した上で、他市の事例も参考にしながら引き続き研究を進めていく。

タウンミーティング後に確認したこと

- ・現在市内には防災井戸がなく、設置には、設置・運営に伴う大幅なコストや安全対策、水質を維持管理していく環境づくりが必要となる。
- ・現在明石市では、緊急時の対策として、大型公園を中心として市内10か所に「地域防災公園」を整備しており、配水場が近接に無い防災公園には、公園内や近隣施設に100,000L(約11,000名の3日分)の飲料水の提供が可能な耐震性貯水槽を設置している。あわせて各浄水場・配水場を拠点とした給水や、各避難所に配備する大容量水槽を利用した給水も行えるようにしている。限られた予算ではあるが最大限供給できる体制づくりを引き続き行っていく。(総務局 総合安全対策室)

自治会の活性化・継続

内容

自治会加入者を増やしたい。

参加者より

- ・自治会に入るメリットが少なく、加入の声をかけるタイミングもない。
- ・自治会員同士で集まって、交流できる場所がない。年に数回地域で実施する「一斉清掃」を活用して、交流につなげていくのが有効ではないか。
- ・UR賃貸住宅から入居者に自治会への加入をPRしてもらえないか。

市より

- ・入居の際には自治会の案内をしてもらうよう、不動産関係者をお願いしている認識であった。URについては確認をする。
- ・2016年に「明石市協働のまちづくり推進条例」を施行し、10年になる。2026年度は「これからの協働のまちづくりのあり方」について検討会を立ち上げ、「自治会のあり方」についても明石市として方向性を定めていく。今後、まちづくり協議会や自治会に関わる方と対話する場を、地域ごとに設けていく予定。
- ・住民同士が交流できる機会を設けることは、自治会への加入促進にも重要であり、特に一斉清掃など地域住民が集まる機会は、顔の見える関係づくりや自治会活動を知っていただく良い機会になる。

タウンミーティング後に確認したこと

- ・市では自治会や町内会への加入促進を図るため、兵庫県宅地建物取引業協会、明石市連合まちづくり協議会と明石市の三者で「明石市における自治会への加入促進に関する協定書」を結んでおり、互いに連携して自治会への加入を促進している。URについては、同協会の会員事業者ではないため同様の取組には至っていないが、今後呼びかけていきたい。(市民生活局 コミュニティ・生涯学習課)



地域のこれから in 高丘

市民と市長との対話のきろく

現在気になっていること、市長や行政、みんなと一緒に考えたいこと



サークル活動の要件緩和

内 容

要件が厳しく、中学校コミセンでのサークル活動の存続が困難になっている。

参加者より

・ここ数年で登録要件が変更され、社会貢献活動が求められているが、高丘中央集会所の一斉清掃活動が対象とならない理由を知りたい。

・高齢化しているサークルが増えているが、集まって活動するだけでも地域活性化につながっていると思う。もう少し要件を緩和してほしい。

市より

・300団体5,000名が活動している「中学校コミュニティ・センター登録団体制度」では、安心して、また継続して文化スポーツ活動ができるよう、最低人数や公益的な活動を積極的に行うことをお願いしている。登録要件を知ったことがきっかけになり、新たな社会貢献活動につながったという声も聞いている。活動については無料の冊子などでも紹介している。

・対象となる公益活動の内容については、全体の声を踏まえ検討し、判断していきたい。

タウンミーティング後に確認したこと

登録要項では、登録団体の要件として、コミセン活動(使用しているコミセンの一斉清掃、会議の出席、コミセンでの各種事業への協力等)の推進に努めることを、公益活動の実施とは別で定めている。ただし、コミセン活動であっても講座の講師を務めるなど「知識や技術を地域や市民へ還元する活動」については、公益活動に該当するとしている。(市民生活局 コミュニティ・生涯学習課)

(参考)市HPのURL

https://www.city.akashi.lg.jp/bunka/ll.cen/kurashi/community_machizukuri_shimin/shisetsu/chugakko/index.html

教員の不足

内 容

高丘西小学校の教員が不足している。

参加者より

高丘西小学校の教員が、2026年4月から急遽2名長期療養になった。その結果クラス運営ができず、教頭先生が担任をしていたようである。教員を補充するなどの対応はできないのか。

市より

全体として教員が不足しているのは事実であり、教員の産休などが重なってやむを得ない場合は、教頭がクラスを持つケースもある。高丘西小学校の現状についてはあらためて確認し、教育長とも実情を共有する。

タウンミーティング後に確認したこと

長期療養の教員のうち1名は復職している。教員の補充については、今後も状況に応じて県と連携し、対応していく。(教育委員会 学校教育課)

空き家問題

内 容

空き家問題への対応をしてほしい。

参加者より

・空き家が増えている。今後の方針や対策を聞きたい。
・コープ大久保の近くに空き部屋の多い市営住宅がある。集まる場所に使うなど、有効活用して欲しい。

市より

明石市は他の自治体と比べると空き家は少ないが、空き家プラットフォームを立ち上げ、兵庫県宅地建物取引業協会をはじめ多様な関係者と一緒に取り組んでいこうとしている。すでに取り組んでいる奈良県生駒市の事例も参考にし、対策を講じていきたい。

タウンミーティング後に確認したこと

明石市と空き家に関する専門家団体が共創して空き家対策に取り組む「あかし共創プラットフォーム 空き家プロジェクト」を10/24に立ち上げ、10/26から空き家の相談窓口を市に開設する。今後、専門家団体から助言・支援をいただくとともに、適切な情報発信、周知・啓発を行うなど、空き家対策に取り組んでいく。(都市局 住宅課)



地域のこれから in 高丘

市民と市長との対話のきろく



現在気になっていること、市長や行政、みんなと一緒に考えたいこと

広報誌の全戸配布

内容

広報誌の全戸配布について知りたい。

参加者より

- ・今までは地域の役員が回覧物を直接渡すなどしていた。全戸配布は非常にありがたいが、地域の人と人とのつながりがより少なくなるのではという気がしている。
- ・居住がない場合、ポストに広報誌が溜まっていくようなことはないか。

市より

- ・新聞折り込みで広報誌を提供していたが、新聞購読者が減少し、お届けできる市民の数が少なくなっていた。全戸配布により、発行頻度は月1回になるが、ページ数を増やし情報量をしっかり確保していく。自治会長から要望の多かった「回覧板の多さ」の負担軽減にもつなげたい。
- ・地域のつながりは大切。まちづくり協議会をはじめ、顔の見える関わりをこれからもお願いしたい。
- ・ポストに郵便物が溜まっている状態が続くと、配達業者から市に情報が入り、市から対応する予定。コールセンターも設置しているため、配布についてお気づきの点などあればご連絡いただきたい。

ボランティア、見守り活動の今後

内容

ボランティアの後継者がいない。今後の見守り活動をどう続けていくのか。

参加者より

- ・交通の便が悪く、ボランティア活動する場所に行けない。
- ・自分はボランティアを善意で続けているが、活動する人が減ってきている。関係者だけでなく市全体で考えて欲しい。
- ・ボランティア(無償)だけでは、難しい時代ではないか。
- ・オレンジキャップよりも、普段からバッグにつけられるキーホルダー等のほうが良いのではないか。

市より

- ・地域で暮らす一人ひとりが子ども達を見守っていける環境づくりが大事。スクールガードの高齢化も重要な課題であるため、より幅広く協力いただける形をつくっていききたい。
- ・高丘地区はボランティアの歴史も長く、多くの方に関わってもらってきた。これからも活動しやすい環境づくりについて、社会福祉協議会も含めて検討していく。

交通の便の改善

内容

バスをはじめとする交通の便を改善して欲しい。

参加者より

- ・東西に長く広い高丘エリアにコミュニティバスを走らせてほしい。
- ・バスの本数が減っている。たこバス等の運行本数を増やせないか。

市より

- ・どの地域でも移動は関心の高いテーマである。
- ・たこバスと路線バスのバランスが大事。バスの運行を継続するためにも、継続した利用をお願いしたい。
- ・地域コミュニティの中で移動手段を持てるよう検討しているところ。明石養護学校が近いので、学校の送迎バスが空いている時間帯に地域で活用できるかどうか等、内部で現在検討を進めている。

スマートインターチェンジ

内容

スマートインターチェンジの設置で石ヶ谷公園の景観が損なわれる。

参加者より

- ・初回の説明会で反対があったにも関わらず、なぜ設置することになったのか。人口減少の中で、どこまで設置する意味があるのか。無駄なお金を使うことに、納得できない。
- ・石ヶ谷公園は素晴らしい公園。景観が損なわれる。
- ・大きな被害などが予想される明石川周辺からも離れているため、防災基地をつくっても活用できないのでは。避難時には明石公園の旧図書館跡地などを活用する方が良いのではないか。

市より

- ・対話を通して市民の皆さんの声をお聞きしながら、丁寧に進めていきたい。今後はまちづくり協議会と現地視察することも検討している。
- ・高丘の自然はしっかり守っていききたい。大久保北部の里山エリアについては、現在大学と協力して、里山体験の場所を検討するなどの取組をしている。
- ・自然を守るとともに、市民の命、安全を守ることが市長の一番大きな仕事である。スマートインター設置についてはすでに調査結果が出ており、これからの大規模災害に備える観点からも、設置する意味・意義があると認識している。
- ・明石公園の旧図書館跡地についても、災害時のための備蓄倉庫として活用する予定。